

『藤農便り』 第 14 号

宮本茶園 宮本 透（自然文化誌研究会）

今年の夏は梅雨明けが早く過酷な猛暑日が続いて熱中症になって体調を崩される方も多かったようですが、皆様はどのように過ごされましたか。私はバイト以外どこにも出かけず、佐野川にこもって畑仕事に専念しました。5 反の茶畑と 1 反の雑穀畑、全ての畑をていねいに管理することは思いのほか重労働、日没まで汗まみれになって草刈りシタ食を食べると趣味のアニメ鑑賞もできずに爆睡の繰り返しです。猛暑にくじけそうになりましたが、農協支所にある農業新聞で読む金足農業高校の甲子園での活躍に元気をもらいました。「横浜高校負けてしまって残念ね」とバイト先で言われた時、「申し訳ありません。元農業高校教員なので地元の横浜高校ではなく、金足農業高校を応援していました！」と即答しました。

・佐野川茶PR活動

①3月16日篠原の里カフェで「茶農家とおしゃべりランチ」を企画していただきました。藤野茶業部員と地元や相模湖から約 10 名の参加者があり、足柄茶・静岡茶・知覧茶・高梨茶園の手揉み茶等の飲み比べや美味しいお茶の入れ方講座を行いました。温かなランチとお茶に合わせたスイーツ桃まんじゅうをいただきながら、茶栽培の苦労話や日常生活とお茶のかかわりなど楽しく情報交換しました。



「茶摘みや手揉み体験をしたい」という意見がきっかけになり茶摘み会が企画され、5月26日「和田の里みちくさの会」主催で12名の参加者が手揉み茶作りを体験されました。「茶農家とおしゃべりランチ」、消費者と茶農家をつなぐきっかけを作っ

ていただいた事深く感謝いたします。

②藤野茶業部では木村普及員の指導で荒茶の煎茶加工に取り組んでおり、6月13日大河原副部長と研修会に参加し製造工程を学びました。出来上がった茶業部煎茶は、6月22・23日に開催される「上河原ほたるまつり」でお披露目することにしました。農協で「さのがわ新茶」ラベルを作成してもらい、大河原さん宅で袋詰め作業を行いました。袋に100g計量し脱酸素剤を入れてシーラーで密封しますが、数が多いので2日にわたる仕事になりました。佐野川茶の未来を語り合い大河原さんが農協で購入した足柄茶製品との飲み比べ等、その昔小金井祭探検部名物シシカバ屋台を思い出す楽しい時間を過ごさせていただきました。夜遅くまで長居してご家族に多大なご迷惑おかけした事、この紙面をお借りしてお詫びいたします。ほたるまつり当日は梅雨空で雨模様でしたが、川辺に舞う螢を鑑賞されたお客様に水出し冷茶を試飲していただき好評でした。茶業部で取り組む「茶産地の茶製品」、たくさんの方に知っていただきたいと思います。



③藤野図書館を考える会は「リレートークの会」を毎月開催し、藤野で活躍されている方の話を気楽に聞ける場を提供しています。純子さんから「雑穀街道とFAO世界農業遺産セミナー」で主宰の福田川さんを紹介され、リレートークスピーカーの依頼をいただきました。室内で私のつまらない話を聞いてもらうのではなく、上岩の茶畑・雑穀畑を案内して藤野茶業部や雑穀街道普及会の活動を紹介しますと

いうことでお引き受けしました。

残暑厳しい8月11日石盾尾神社に集合、雑穀畑から茶畑の創業石碑までいろいろ説明しながら歩くと1時間以上かかります。



佐野川公民館に移動し、私が藤野に移住して茶栽培を始めるまでの経緯を30分ほど話させていただきました。質疑応答では旧藤野町の茶業取り組み・佐野川の茶畑風景が「日本の里100選」に選定された理由等、地元でもなかなか知りえない興味深い話題で盛り上がりました。先人たちが急斜面を開墾し苗木を植栽してから50年の歴史を刻む佐野川茶、その魅力を再認識することができました。四季折々豊かな自然の中で働ける場を与えてくださった方々に深く感謝し、さらなる精進を続けます。

・夏の畑仕事

摘採時期の雨降りて苦勞した一番茶の収穫が終わり、早い農家は5月下旬から製枝作業を開始します。昨秋の研修会で品評会上位入賞茶園を見学し、茶樹更新をしなければよい葉が収穫できない事を悟りました。木村普及員に相談し、数年かけて上岩の茶畑更新に取り組む計画を立てました。茶樹は毎年葉を収穫し製枝作業を行うとだんだん枝が細くなり、葉層が薄くなって収量が落ちてきます。更新は一番茶収穫後に行われ、養分が通りにくくなった細い枝を深く刈り取り、残った枝から新しい芽がでるようにします。木村普及員の指導で古葉が残らない程度まで太い枝を切り落としましたが、緑鮮やかな手前右から2列目が昨年の製枝講習会で更新した畝です。



管理作業で一番重要なのは製枝だと教えていただけていますが、一年でこれだけ違う製枝効果を自分の目で確認することができました。

6月15日茶園巡回製枝指導があり、農家ごとに機械刈りに適した製枝をどのように行うか助言を受けました。梅雨明け間近の時期、晴れ間を見つけては協力し合って製枝作業に取り組みました。製枝が終わると夏本番、猛暑の中で畑周辺の草刈りと茶樹を覆うツル草取りが続きます。8月上旬上岩で管理できなくなった茶畑の製枝作業を依頼され、茶業部有志で請け負いました。述べ4日間熱中症にならないよう早朝から午前中だけの作業でしたが、生い茂る雑草を取り除いて茶畑をよみがえらせることができました。



・第40回相模湖・ダム建設殉職者合同追悼会

神奈川県民の水がめになっている相模湖は1940年にダム建設が始まりました。日本のアジ

ア侵略を支える軍需工場の電力供給を主目的にし、捕虜にした中国軍兵士や強制連行した朝鮮の人々を酷使して建設が進められました。この事実を知ったのは特殊教育研究部の仲間たちと、都立八王子養護学校の総合学習に参加した学生時代でした。1980年代の八王子養護学校は修学旅行に広島を訪れ、生徒たちは日本のアジア侵略の歴史をていねいに勉強していました。八王子と戦争のかかわりを学ぶ中で、高尾山麓の浅川地下壕は大本営や戦闘機製造の中島飛行機工場を米軍攻撃から避難させるために数千人の朝鮮人労働者を相模湖ダム同様に酷使して建設した事を知りました。侵略戦争遂行のダム・地下壕建設で多数の中国・朝鮮の人々が殺された事実は、中学・高校の歴史授業で教わる事はありませんでしたから衝撃でした。

里カフェのおしゃべりランチに参加して下さった橋本・中島夫妻は、相模湖畔でアミーユというカレー店を開いています。相模湖・ダム建設殉職者合同追悼会実行委員会のまとめ役を長く務め、第40回追悼会実行委員に誘って下さいました。昨今日本のアジア侵略の加害歴史を学ばず南京大虐殺・朝鮮人少女を性奴隷にした軍隊慰安婦等日本軍の戦争犯罪を否定する人々が増え、改憲し再び日本を「戦争する国」にしようとする権力者が支配する社会に危機感を覚えていたので、委員に加えていただきました。1979年から続く追悼会では手造りのモニュメントを前に、中国大使館・韓国領事館・朝鮮総連はじめ各界代表が追悼の辞を述べて参加者が献花、地元の小中学校・朝鮮学校の子もたちの合唱や舞踊が披露されます。毎年7月相模湖で開催される追悼会、アジア侵略の歴史を反省し日本が再び侵略戦争をしないために多くの人に参加してほしいと思います。



・雑穀栽培普及会活動

4月上野原市役所で開催された「雑穀街道とFAO世界農業遺産セミナー」の後、雑穀街道普及会藤野地区では種子提供の問い合わせがくるようになりました。今年から雑穀栽培に取り組む鎌沢のブライアンさんにキビやモロコシの種子を差し上げたところ、中古の耕耘機をいただきました。おとぎ話のわらしべ長者のようで、早速上岩雑穀畑の耕起に実力を発揮しています。茶の収穫が終わった5月下旬から植付け準備を始め、ハトムギ・モチキビ・モチアワを播種したのが6月17日でした。田村さんの茶畑製枝作業をした後、畝切りを手伝っていただいたので時間をかけずに播種することができました。津久井在来大豆22日・25日播種、7月4日モロコシ苗定植、5日木俣師からいただいた借金なし大豆播種と植付け作業を続けました。

昨年内郷の大豆栽培は雑草に負けてクズ豆しか収穫できなかったため、今年はおまめに除草・土寄せしています。キビは8月上旬に出穂し始め、お盆期間は裏山に入って防鳥ネット掛けの支柱に使う竹を切り続けました。14日から支柱を用意し始め、クイ打ちしてネットを掛け終えたのが25日でした。純子さんに話すと「あんたの仕事は人の3倍時間がかかるのだから！ だけど一人でやったのは偉い！」とけなされたのかほめられたのか判断が難しいお言葉をいただきました。



田村さんから借りた1反の雑穀畑は今年農地利用権設定をせず、6月に鳥獣害防護対策の補助金交付手続きをしたところ利用権未設定農地には補助金が交付されないことがわかりました。7月の農業委員会会議に間に合うよう急いで書類を作成し、8月から正式に利用権設定が認められました。雑穀・大豆がシカやイノシシのエサにならないよう、防護柵設置を準備しています。

藤野地区 自給農耕ゼミ雑穀栽培講習
問い合わせ：宮本透 090-2205-8476 まで